

## 水稲とえだまめでがっちり！地域の農業を担います

巻

新潟市西区黒埼地区は、水稲と黒埼茶豆で有名なえだまめの複合個別経営が多い地域です。その中で、先進技術の導入や地域の担い手として取り組んでいる法人を紹介します。

「株式会社サンクスファーム黒鳥」は、平成27年に3人の構成員が設立し、7人の従業員とともに水稲40ha、えだまめ3haを中心に複合経営を行っています。

黒埼地域でも高齢化や担い手不足の状況は進んでおり、サンクスファーム黒鳥は地域の水田の受け手として期待され、年々受託面積が増えてきています。水稲栽培面積の増加に対応するために、農機具メーカー等



女性も若者もがんばっています

と連携し、播種量を多くして育苗枚数を減らす栽培やICT技術を取り入れ、ほ場の水位をスマートフォンに送るアプリの実験を行うなど、先進的な取組を行っています。

また、冬期間は砂丘地の加工用だいこんの収穫作業を受託しており、黒埼地区にとどまらず、広く西区の農業の担い手としても活躍しています。

普及指導センターでは、地元JAと協力して生育状況を把握し、技術情報を提供することで、生産者が的確な栽培管理を実践し、高品質・良食味の米やえだまめの生産が行えるよう支援していきます。



美味しい黒埼茶豆を直売しています

## 「買うには理由がある」ことを知りました!

三条

普及指導センターでは、農産物の情報発信や販売先として存在感を増す農産物直売所の取組拡大を図り、経営の複合化や多角化推進の一助とすることを目的に、2回シリーズの研修会を開催しました。

第1回目は、農畜水産業及び商品製造業のコンサルタントとして全国的に人気を集めている安心農業株式会社の藤井淳生氏から、「売れる直売所の品質管理と情報発信のこれから」について講演をいただきました。客層の変化を捉えることや、売り場における食の安全を堅持する「守備力」を上げ、リスク低減に向け

た取組が最も大事であることなどを学びました。また、普及指導センターからは、直売所にもお薦めの「新規園芸品目の導入とポイント」を紹介しました。

第2回目は、個人事業者でも出来る情報発信の具体的なあり方について、JAにいがた南蒲が経営する農産物直売所「ただいまーと」の金子裕基副店長から取組の実例や、(有)ナカセンの竹谷知江子氏から売れるPOPのコツについて講演と演習を指導いただきました。

2回の研修会には、延べ100名を越える直売関係者の参加がありました。実施したアンケートでは、回答者の100%がメイン講演は「参考になった」と回答し、栽培の話に至っては「もっと詳しく話を聞きたい」との声が多数寄せられました。育苗ハウスを活用したコンテナ栽培の情報を求める声も多く、今後の支援にも役立てていきます。



売れる直売所の品質管理と情報発信についての講演



新規園芸品目の導入とポイントを紹介